

六ヶ所再処理工場回収プルトニウム利用計画（平成22年度）

平成22年度に六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウム（※1）の利用計画は以下のとおりです。

	再処理予定量 (トン)	所有量（※2）（トン） (核分裂性プルトニウム量)（※3）			利用目的（軽水炉燃料として利用）		
		21年度末 保有量	22年度 回収量	22年度末 保有量（※4）	利用場所（※5）	年間利用目安量（※6） (トン/年) (核分裂性プルトニウム量)	利用開始時期（※7） 利用に要する期間の目途（※8）
中部電力 株式会社	22年度						
	—（※9）	0.2	0.0	0.2	浜岡原子力 発電所4号機	0.4	平成27年度以降 約0.5年相当

※1 当社は、平成21年12月末現在、国内に約0.4トン（日本原子力研究開発機構に約0.1トン、日本原燃株式会社に約0.2トン、浜岡原子力発電所にフランスのメロックス工場で加工されたMOX燃料28体として約0.1トン）、海外に約2.2トン（フランスに約1.6トン、イギリスに約0.6トン）の核分裂性プルトニウム量を保有しています。海外に保有しているプルトニウムは、原則として海外でMOX燃料に加工して利用することとしており、平成22年度から浜岡原子力発電所4号機で利用していく計画としています。なお、フランスに保有している核分裂性プルトニウムのうち、約0.1トン電源開発株式会社に譲渡する予定です。

※2 「所有量」には平成21年度末までの核分裂性プルトニウム保有量、平成22年度に六ヶ所再処理工場で回収される核分裂性プルトニウム量及び、その合計値である平成22年度末までの核分裂性プルトニウム保有量を記載しています。「所有量」は小数点第2位を四捨五入の関係で表記上0.0となる場合があります。なお、回収されたプルトニウムは、各電気事業者が六ヶ所再処理工場に搬入した使用済燃料に含まれる核分裂性プルトニウムの量に応じて、各電気事業者に割り当てられることとなっています。

※3 ここで扱う核分裂性プルトニウムは、プルトニウム239、プルトニウム241をさします。

※4 「22年度末保有量」は、「21年度末保有量」に「22年度回収量」を加えたものですが、小数点第2位を四捨五入しているため合計が合わない場合があります。

※5 「利用場所」については、浜岡原子力発電所4号機による利用の他、電源開発株式会社あるいは日本原子力研究開発機構に譲渡する場合があります。

※6 「年間利用目安量」は、浜岡原子力発電所4号機で、1年当たり利用するMOX燃料に含まれる核分裂性プルトニウムの量です。

※7 「利用開始時期」は、六ヶ所MOX燃料加工工場のしゅん工予定時期の平成27年度以降としています。

※8 「利用に要する期間の目途」は、「22年度末保有量」を「年間利用目安量」で除した年数を表すことによって、利用期間としての年数を示しています。

※9 「—」とは、該当する量が全くないことを示しています。